

ICT を用いて課題意識を高め、 粘り強く自ら情報を収集・選択し、考察する学習

第2学年

欧米の進出と日本の開国

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 学習課題の解決に向けて、共有フォルダから自ら資料を収集し、読み取った事実を関連付けることができました。
- 複数の資料を関連付けて素早くキーボードで自分の考えを入力したり、ICT 端末を用いて資料から読み取ったことを学習ノートでまとめたりして、自分に合った表現ができました。

大型提示装置を用いて社会的事象の問題を焦点化



「黒船と日本船の様子」や「開国・通商をめぐる大名の意見」など、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて資料を比較することで、課題意識を高める。

- ・社会的事象の特徴を視覚的に捉えられるように、事実が読み取りやすい資料等を大型提示装置で提示する。
- ・予想される生徒の発言に対して、考えの理由や根拠を求める問い返しを行うことで、学習課題が焦点化を図る。

教師の指導のポイント

- 大型提示装置と併用して、ICT 端末にも資料を共有すると、全ての生徒に提示資料が確認できるようになる。
- 文章資料など、提示する内容を読み取ったり、理解が難しかったりするものについては、提示した後に、ICT を用いて、図解表現でイメージを把握できるようにしたり、象徴的な写真を示したりするとよい。

協働学習支援ツールを用いて、個別最適に課題解決の見通しに合った資料を活用



共有フォルダにあらかじめ資料を格納し、生徒が自ら資料を収集・選択・活用できるようにする。

- ・協働学習支援ツールのファイル共有の機能を用いて、自分の予想に合わせて複数の資料を選択する。
- ・教科書等の資料を撮影してスライドに取り込んで自分の考えをキーボード入力したり、ICT 端末で閲覧した資料から読み取ったことを学習ノートに記述したりして、生徒自ら表現方法を選択する。

自分が読み取ったことを仲間に提示して伝えるようにする。

- ・自分の考えを伝えるために、根拠となる資料等を協働学習支援ツールで送信し、大型提示装置で提示する。

教師の指導のポイント

- 地図や年表等、毎時間活用できる資料は、共有フォルダに入れておき、資料を示しながら説明できるようにする。
- 選択した資料を基に考察したことについて、一人一人が考えを伝えることのできる表現活動を位置付けるとともに、仲間の示した資料等を取り入れて自分の考えを再構成できるようにする。